

前期の科目終了時アンケート結果は[コチラ](#)から参照ください

科目コード
11902

授業科目名	担当教員名	履修区分	配当年次	開講期	単位	DP対応
イノベーションと社会 (旧 Webビジネス・スタートアップ)	小林 弘人 上野 大樹	G:選必 D:必	1	春	2	1,3,4,5
科目概要						
そもそも起業して何をしたいのか？ イノベーションを興す目的はなにか？ 実践家や最先端のテクノロジー、社会の変化を紹介します。それにより未来の起業家が考えるべきポイントを網羅し、思想と動機を深めます。						

	必須	推奨
事前学習科目		
事後学習科目		AIとメタバース ゼロからのデジタルビジネス

学びの目的とゴール
起業家が行うイノベーションは、そもそも誰かのための課題解決となる。かつて、それは飢餓や困窮、衛生に絡む問題でしたが、先進国においてはすでに当該領域は満たされ、個々の課題解決はさることながら、すでに社会課題の解決に向かっていると言えます。 さらに世界全体で見れば、それは地球課題の規模となっています。本講義はそれについて学び、思考を促すことを目的としています。多くの起業家志望者は「起業のためのモラトリアム時間」を持ち得ます。ゲームメーカー ATARIでアルバイトをしていた頃のステーブ・ジョブズしかり、掃除機を再発明する前に手押し三輪車を改良したジェームズ・ダイソンしかり。そこで偶発的に出会った人間関係や、メディアを通じて見聞きしたビジネスモデルとその体験、特定のテクノロジーに惹かれるなど、さまざまな動線を経て最終的な起業のアイデアにいきつくと推察されます。 そして、世界が変化しつつあるなか、イノベーションの意味も変わりつつあります。現存するテクノロジーを使って、なにを興したいのか、そこにどのような価値や意味があるのか、それを探ることを本講座の目的とします。また、これからの起業家は「日本」という地域だけで物事を考えるのではなく、世界でなにが起きているかを考慮しながら、ビジネスのポジショニングを探る必要があります。 本講座は、「こうしたら良い」とか「この法則を活用して、起業しなさい」というスタイルは取りませんし、メソッドをもちません。大切なことは、学際的に横溢する情報の地平を俯瞰しつつ、あなたによる発見と自身の動機を形成することにかかっています。 本講座では、漠然と生活していたら出会うことのない事例や実践家らの挑戦、考え方を紹介します。それをどう活用するか、講義の半分は皆さんの能動的なディスカッションや新たなリサーチを促します。それにより、自身が本気で取り組みたいことを見つけられるための支援を行います。ゴールはそれをあなた自身で発見することですが、その時期については特に期限を設けません。

評価の観点	評価割合	評価の方法
平常点	10%	受講認証を参考に、総合的に評価する。
ディスカッションへの参加	35%	ディスカッションへの発言状況およびその内容を評価する。 発言の内容は授業の趣旨を踏まえた発言になっているかという観点から評価する。
各回課題	20%	各回で出題される課題の取り組み状況および提出内容を評価する。

最終課題	35%	最終課題の内容を評価する。
------	-----	---------------

担当教員からのフィードバック方法	
・エアキャンパスでのディスカッション ・第8回講義でオンラインセッションを実施 ・第15回講義でオンラインセッションを実施 ・第16回講義でオンラインセッションを実施(一部最終課題へのFB含む)	
※開講までに、講義で取り上げるテーマを変更するため、講義実施形式を変更する場合があります	

教科書	なし
参考図書	・イヴァン・イリイチ(1973)『コンヴィヴィアリティのための道具』(ちくま学芸文庫) ・マリアナ・マツカート(2021)『ミッション・エコノミー：国×企業で新しい資本主義をつくる時代がやってきた』(NHK出版) ・ポール・ホーケンほか(2001)『自然資本の経済 --成長の限界を突破する新産業革命』(日本経済新聞社) ・水野大二郎・津田和俊(2022)『サーキュラー・デザイン：持続可能な社会をつくる製品・サービス』(学芸出版社) ・清水 洋(2019)『野生化するイノベーション』(新潮選書) ・小林弘人(2020)『After GAFA 分散化する世界の未来地図』(KADOKAWA) https://www.amazon.co.jp/dp/4046043865

教員紹介
小林 弘人 経営学部 デジタルビジネスデザイン学科 専任教授 株式会社 TNLメディアジーン 共同創業者／チーフ・コンテンツ・オフィサー 株式会社インフォバーン 代表取締役会長CVO 株式会社メディアジーン 取締役 「ワイアード」「ギズモード・ジャパン」など、紙とウェブの両分野で多くの媒体を創刊。1998年に株式会社インフォバーンを創立。企業、自治体のデジタル・マーケティングとイノベーションを支援。2024年に台湾のTNLグループと経営統合し、2025年に米Nasdaqに上場。 2017年よりベルリンの人気テクノロジー・カンファレンスTOAの日本公式パートナーとして、日欧企業の橋渡しや双方の海外進出支援を行う。 2019年より長野県信州ITバレー構想のアンバサダーに就任 2024年 官民共同運営のPFI刑務所『島根県立島根あさひ社会復帰促進センター』次期事業者選定委員を務める 主な著書／『メディア化する企業はなぜ強いのか？』(技術評論社)『ウェブとはすなわち現実世界の未来図である』(PHP新書)『After GAFA 分散化する世界の未来地図』(KADOKAWA)。主な監修・解説／『フリー』『シェア』『パブリック』(NHK出版)、『インターネットが普及したら、ぼくたちが原始人に戻っちゃったわけ』(晶文社)ほか

上野 大樹
経営学部 デジタルビジネスデザイン学科 学科長 専任教授

横浜国立大学工学部電子情報工学科卒業
横浜国立大学大学院工学府物理情報工学専攻修了
株式会社日立ソフトに入社、Webアプリケーション開発業務を担当の後退社
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程修了、博士(政策・メディア)
情報検索システム、ソーシャルメディア、UI・UXなどの研究をする傍ら、Webサービスやスマートフォンアプリなどを開発

回数	学習内容	学習課題
0	この講義について	本講義の意味と期待すべき学習効果
1	サーキュラーエコノミーについて考える 1	欧州発サーキュラー・エコノミーについて学ぶ。同アイデアがEUのビジネスを駆動するようになった過程および、ビジネス事例などを知り、自身の身近なビジネスに置き換えて考える。
2	サーキュラーエコノミーについて考える 2	前回に続き、サーキュラー・エコノミーを学ぶ。日本では脱炭素・廃棄ゼロに偏重しがちであるが、生物多様性の再生を目指した事例やアイデアに焦点をあてる。同講座で学んだ自然資本の考えなどを応用したイノベーションのアイデアを考える。
3	次代のモビリティについて考える	次代のモビリティの事業者をリサーチし、共有する。そして、どのような可能性があるか自身のアイデアを含めてACに書き込み、ディスカッションを行う。
4	これからのPrivacyについて考える	本講義で学ぶePrivacyについて感想をACに書き込み、これからのWebの在り方についてディスカッションを行う。
5	未来の「働く」を考える	未来の「働く」について自身のアイデアや感想を含めACに書き込み、これからの未来の働き方についてディスカッションを行う。
6	コミュニティの未来	これからのコミュニティに必要な要素は何か？ 生来から帰属するコミュニティとは違う、新たなコミュニティをこれから創ることを想像して、ディスカッションを行う。
7	フェムテックについて考える	フェムテックの事例を紹介、またリサーチし、皆で共有する。そして、その可能性について皆とディスカッションを行う。
8	CUCMe (1)	これまで取り組んできた課題について、おもしろい取り組みや、リサーチ結果をクラスで共有する。
9	「未来」の描き方について考える	2050年の未来について、どのように探るのか各種メソッドを通じて、自身のアイデ

		アを共有し、ディスカッションを行う。
10	「学ぶ」の未来について考える	教育の未来について自身のアイデアを共有し、皆とディスカッションを行う。
11	「食べる」の未来について考える	フードテックの事例をACで共有、自身のアイデアを含めて皆とディスカッションを行う。
12	クライメートテックについて学ぶ	気候テック / Climate Tech に関する取り組みを知り、気候・環境にまつわるビジネスについて皆とディスカッションを行う。
13	DE&I(多様性、公平性、そして包摂)について考える	本講義で解説されるマイクロアグレッションやアンコンシャス・バイアスを考える。また、どう自分が属する環境を変えていくのかディスカッションを行う。
14	あたらしい公共を考える	市民駆動形、または市民中心の新たな公共空間の作り方について、事例をリサーチし共有。日本における課題やチャンスについてディスカッションを行う。
15	ワークショップ	そのままでは廃れゆく身近なものの未来を考える
16	CUCMe(2)	最終課題に対するフィードバック講義

※学習課題は開講時に指示します。

※開講や課題出題のスケジュールは、別途配布している配信スケジュールを確認してください。

受講上の注意	
以下を了承し、実践ベースで学習に取り組むことを、履修条件とします。 ・本科目は、デジタルビジネスデザイン学科の必修科目です。単位が認定されなかった場合は、再履修が必要です。 ・発言 & ディスカッションは、ディスカッションテーマ(研究質問)に基づいて進めます。 ※単位認定には、顔認証による本人確認が必要です。 ※シラバスの内容等は、社会状況や受講生の理解度等にあわせて変更になる可能性がございますので、予めご了承ください。	